



戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。



芦屋ユネスコ協会 会長 山中 健

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに2023 年の新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

さて昨年の芦屋ユネスコ協会は、5 月の「2022 年度総会」をはじめ、8 月 15 日の「平和の鐘を鳴らそう」行事、また 12 月には外務省から政府代表全権大使（関西担当）を招いて開催した「年末講演会 & 親睦会」など、すべての行事を無事に開催することができました。

そのみならず、昨年 2 月 24 日に始まったロシアのウクライナ侵攻を受け、3 月 6 日と 4 月 1 日・2 日・3 日に「ウクライナに届け 平和の鐘を鳴らそう」事業を実施、また日本ユネスコ協会連盟から要請のあった「ウクライナ緊急募金」活動も同時に行い、広く市民の皆様からのご協力を得、25 万円もの募金を本部へ届けることができました。

残念ながら、2023 年を迎えてもコロナ禍は第 8 波の只中にあり、ウクライナに平和がいつ訪れるのかを見通すことも困難です。それでも私たちは飽くことなく「平和」を願い求め続け、本年もユネスコ活動の原点・平和に思いを馳せてまいりたいと思います。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金の使われ方 報 告

日本ユネスコ協会連盟によれば、昨年 5 月末で締め切られた募金額は、863 件・約 8,194 万円に上りました。昨年末には、うち 90% 以上を執行済みとのことです。

使途は、ウクライナや近隣国への避難民の宿泊・食糧・生活物資の支援に使われています。また避難民の滞在が長期化する中、ストレスケアや語学面の支援ニーズにも対応しているとのことです。



写真提供：ユネスコアルムニクラブ協会（ルーマニア）

「2022 年度 年末講演会 & 親睦会」 12月20日(火)



2022 年 12 月 20 日 (火) 午後 6 時、3 年ぶりに「年末講演会 & 親睦会」がホテル竹園の飛鳥の間で開催されました。

芦屋ユネスコ協会が、このように年末に歴代の大使をお招きし講演会が開催されるようになったのは、阪神・淡路大震災後にわが協会が再スタートした 2000 年からです。

今年度は山中会長からの挨拶で開会、ご来賓への参加のお礼や、1 年間の行事が 3 年ぶりにすべて実施できたこと、また 2 月 24 日にロシアのウクライナ侵攻を受けて平和の鐘の前で実施した「ウクライナへ届け 平和の鐘を鳴らそう」事業やその募金活動など、例年以上の事業をも実施できたのは、すべて芦屋市・芦屋市教育委員会をはじめ会員皆様のご尽力の賜物であると、感謝の言葉が述べられました。



戎井恭子副会長

開会挨拶に続き、今回「藍綬褒章」を受章されたわが協会の副会長でもある戎井恭子様を紹介され、芦屋ユネスコ協会有志からお祝いの胡蝶蘭一鉢等を贈呈しました。

今回の「記念講演会」では、政府代表 / 外務省特命全権大使の姫野勉大使から、「激変する世の中—どう対応するか— 暗い話から明るい話へ」と題したお話を伺いました。



姫野 勉 大使

今年はロシアのウクライナ侵攻をはじめ、台湾総統選挙での政権交代、中国では習近平国家主席が異例の 3 期目就任を固め、エリザベス女王の崩御、アメリカ大統領の中間選挙や G20 などの国際会議も開かれました。まさに激動の 1 年でした。来年には日本が議長国となり、G 7 も開催されます。世界に信頼される日本であるためには、戦争を起こさない現状を願う国々を仲間として増やしていかなければならないと、熱く語られました。大使のそんな熱い思いに会場は満たされ、2022 年の講演会は終了しました。



3 年ぶりの親睦会は、いとう まい 芦屋市長 (左・芦屋ユネスコ協会顧問) からの乾杯のご発声で宴の幕があき、金澤常任理事のピアノ演奏に日垣舞音様の美しいソプラノに耳を傾けながら、フルコース

のお料理をいただきました。最後のお楽しみビンゴゲームは、山中会長や藤井副会長を中心に理事・会員の協力により進められ、参加された皆様も数多くの豪華景品を勝ち取って、大使を含め大いに盛り上がりました。

閉会のご挨拶は、福岡憲助教育長 (右・当協会顧問) が締めくくってくださいました。



エンディングには会場みんなで「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」「蛍の光」を歌い、「2022 年年末講演会 & 親睦会」を楽しく終了することができました。

最後になりましたが、今回の司会・進行をお引き受けくださいました当協会理事の上木敦子様に感謝申し上げますとともに、さまざまな行事・事業に参加・協力くださいましたすべての会員・役員の皆様に心から感謝申し上げますと存じます。本当にありがとうございました。



日垣舞音さん



第 78 回 日本ユネスコ運動 全国大会 in 木更津



紅葉もまばらとなった11月26日(土)、「第78回日本ユネスコ運動 全国大会」が千葉県木更津のかずさアカデミアホールを会場に開催され、全国から約300人が参加しました。

今回は「オーガニックシティー・木更津からの発信」として、俳優・宇梶剛士氏の基調講演をはじめ、「持続可能な未来を目指す取り組み」について語り合ったパネルディスカッションが実施されました。

この大会に参加して、次世代を担う子どもたちの未来のために、私たちは人間・自然・文化の調和に努め、

みんなが安心して暮らせる持続可能な社会を残していかなければと思いました。そのためには、ユネスコ創設の理念である「平和の実現」に心を砕き、日々の民間ユネスコ活動に取り組んでいかなければならないという思いを新たにしました。なお、2023年度の全国大会は9月9日(土)、山梨県富士吉田市で開催の予定です。(報告:藤井祐子副会長)

「ユネスコ世界寺子屋運動」はマイケル・ジャクソンさんの寄付でスタートした

機関紙ユネスコ 2021 年 1 月号より抜粋 <出典:鎌倉ユネスコ協会会報 2009 年 9 月 1 日発行>

マイケル・ジャクソンさんの寄付でスタートした「ユネスコ世界寺子屋運動」それは 1987 年夏のことでした。

一本の電話が、日本ユネスコ協会 連盟事務局に入った。マイケル・ジャクソン関係者から「この秋、日本での初公演にあたって、マイケルがユネスコ運動に協力したいといっている」と。ひとつはマイケル愛用品提供によるチャリティ・オークション。もうひとつはマイケルの肖像入りゴールド・メダル 発行の許諾。それらの収益金全額寄付の申し出だった。何の見返りも要求せず、その基金にマイケルの名を冠することさえ拒み、ただ基金の用途は「学ぶ機会に恵まれない途上国の子どもたちのために」の言葉を残して、マイケルは日本をあとにした。

私たちはこの基金をシードマネーに、1989 年、「ユネスコ世界寺子屋運動」をスタートした。

日本滞在中、何日か行動をとともにした私たちが驚いたのは、少年のように無垢で繊細、含羞に満ちたマイケルの実像であった。湘南海岸を走る車の中だったか「あなたはなぜ寄付先に民間ユネスコを選んでくださったのですか？」と質問した。ようやく聞き取れるほどの小さな声で「ユネスコの支援活動がギフトでなくコー・アクションだったから。その理念に共感したから」とマイケルの答が返ってきた。Co-Operative Action 略してコー・アクション。支援する側も受ける側も、同じ地平に立ってともに行動する。これぞユネスコ精神そのものだった。差別と貧困を平和と共生に変えていくことを、その音楽活動を通して訴えつづけたマイケル。『もう見過ごしてはいけない 世界で起こっていることを。僕たちが変えていかななくては僕たちにはそれができる筈だ』と “We are the world” でマイケルは絶唱している。



オークションに寄託の愛用品贈呈式で

■ 書き損じハガキ・キャンペーン 2023 スタート ■



今年も「書き損じハガキ・キャンペーン」が始まりました。
本キャンペーンでは、書き損じハガキだけでなく、未使用の切手や商品券、プリペイドカード類も受け付けています。

切手コレクションや、未使用のテレホンカード・クオカード・図書カード、全国百貨店共通商品券、旅行券、ビール券などのタンス遺産があれば、市内33箇所に設置している「タンス遺産 POST」へ投入いただくか、芦屋市役所北館4階の生涯学習課窓口（芦屋ユネスコ協会事務局）へお寄せください。

一人でも多くの人たちに教育の機会を届けられるよう、ご自宅から気軽にできる国際協力にお力添えをお願いします。

【書き損じハガキ回収BOXの配置先】

下記の市内33カ所にBOXを置いています。お近くのBOXをご利用ください。

- 芦屋市（教育委員会生涯学習課内） ●ラポルテ市民サービスコーナー ●市立芦屋病院 ●保健福祉センター ●上宮川文化センター ●市立図書館 ●市立美術博物館 ●谷崎潤一郎記念館 ●総合公園 ●芦屋公園テニスコート ●市立体育館・青少年センター ●市民活動センター（リードあしや） ●木口福祉財団 ●シルバー人材センター ●エルホーム ●市立精道中学校 ●市立山手中学校 ●市立潮見中学校 ●市立精道小学校 ●市立宮川小学校 ●市立山手小学校 ●市立岩園小学校 ●市立朝日ヶ丘小学校 ●市立潮見小学校 ●市立打出浜小学校 ●市立浜風小学校 ●兵庫県立芦屋高等学校 ●兵庫県立国際高等学校・国際中学校 ●県立芦屋多文化センター ●芦屋学園高等学校・中学校 ●甲南高等学校・中学校 ●クラーク記念高等学校芦屋校

書き損じハガキ・キャンペーン 2022 のご報告

書き損じハガキ・キャンペーン2022(2021年12月～2022年11月)では、「タンス遺産」によるご協力は4,781万円相当にのびりました。これらのご支援で、新しい寺子屋をカンボジアで1軒建設し、主にカンボジアとネパールで合計2,721人の人々が教育プログラムや技術訓練で学ぶことができました。学校に行きたくても行けない、最も教育から遠ざけられてしまう人々に、学びの基礎となる識字をはじめ、生活スキルに至るまで幅広い教育を届けることができました。

アフガニスタンとミャンマーでは政情不安の中でさまざまな配慮を要しますが、引き続き情報収集をもとに現地関係者と再開に向けて協議を行っています。



小学校クラスで学ぶ子どもたち（カンボジア）

編集後記

●昨年12月3日、塩井努前会長が永眠されました。学生時代からユネスコ活動に身を投じ、芦屋ユネスコ協会再スタートにも尽力いただいた功労者でした。本当に、ありがとうございました。お志は、会員みんなで引き継いでまいります。

●2022年度も、後2カ月を残すばかりとなりました。年会費を未払いのままだという会員の皆様、下記へご入金いただきますよう、よろしくお願いします。

【振込先】

◆三井住友銀行 芦屋駅前支店
普通口座 3901693

◆口座名義 芦屋ユネスコ協会
会長 山中 健